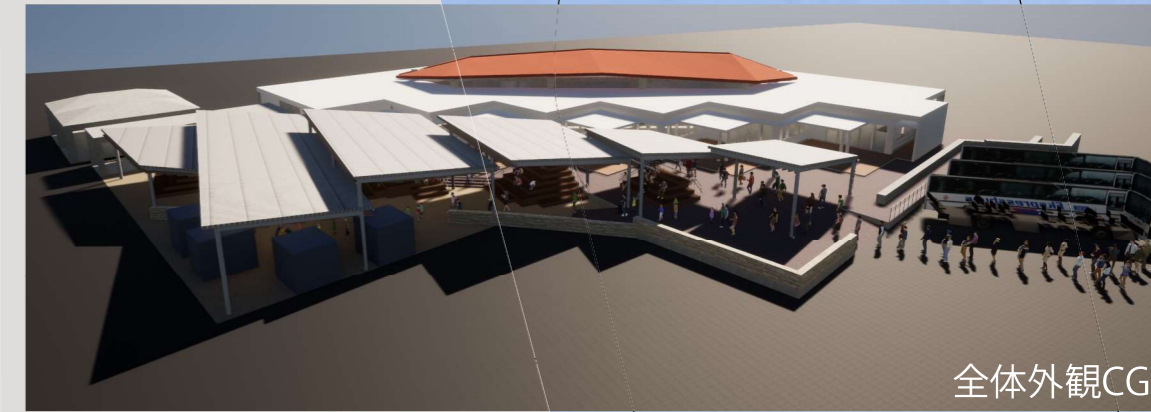


雁行する段々ベンチ

現在の荷捌き施設の団体客利用の混みあい、団体待機場所の窮屈さを知ると同時に、既存施設との連携を考え動線計画を行った。

バスからの主要アプローチ動線と、既存の雁行した形のデッキの間に、段々ベンチを少し斜めに配置することで人の目線と動線を作り、荷捌き、待合い、既存建物の連携を図る。積層した片流れ屋根は、南側からの強い日射を防ぎ、かつ北側の安定した光を取り入れ落ち着きと解放感、快適性を作る。

本計画では700人規模を想定し乗客定員から導かれた数であると考え、既存建物との合計として700人収容できるように考えた。団体利用客の待合い・荷捌きを考慮しておりバス駐車場からのアプローチが不可欠であるため、広場からの外構を含む計画になったが緑色の敷地境界内には492m²の屋根面を有し、要件は満たす計画になっている。年度予算算出で敷地南側の三つの屋根面の増築が完了可能だと考えており、実現性のあるプランとして提案する。



鹿児島行き
フェリー切符
購入

帰りの長距離移動に備え、
トイレに行く団体客(修学旅行生)が多い。
ほとんどは広場をショートカットしてバスへ

トイレ

売店

伊江島行き
切符購入
手荷物預かり

和室

個人利用の荷捌きの様子

個人客主体荷捌き(現在の団体客用荷捌き)
団体用としては適さないが個人(島民の生活物資など)の荷作りは
十分出来るため、ここで個人と団体の利用を分け効率化を図る。

フェリー船

フェリー乗り場

平面図

scale 1000 2000 4000 (mm)

- 団体客動線
- 荷捌き動線待機利用
- 個人客動線

人溜まり場
バス乗降時の点呼などに使える

▽GL+500

既存デッキ

既存待合い空間
(個人客)

現在待合い室では弁当を
食べている人も、外で臭いを
気にせずに昼食が出来る。

エントランス2

▽GL±0

エントランス1

2



フェリー乗り場

団体バス駐車場

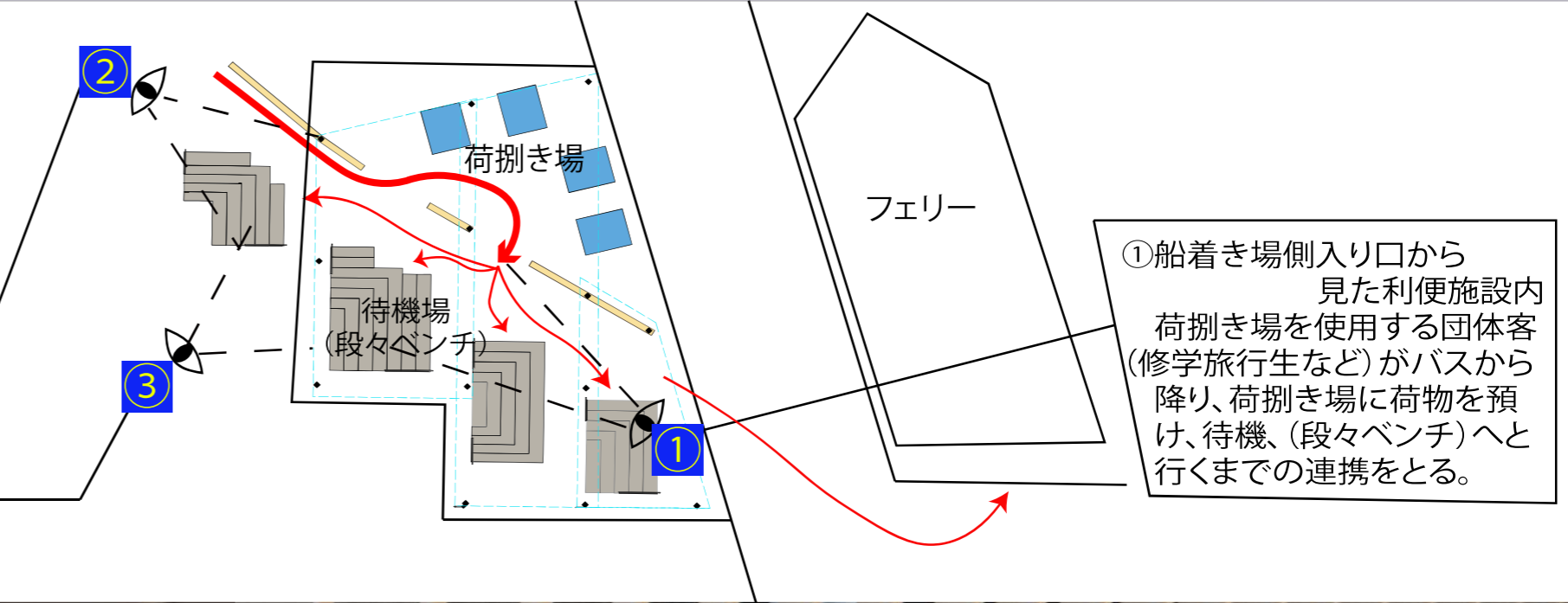


AA'断面図

5m 10m 20m

②バスのから駐車場から見える主要動線
片流れ屋根の連続により主要動線方向性を強めるような平面構成とした。

③既存施設側から見た荷捌き便利施設
既存施設のデッキに対して段々ベンチを斜めに配置することで圧迫感を軽減し、アプローチを容易にする。



①船着き場側入り口から
見た便利施設内
荷捌き場を使用する団体客
(修学旅行生など)がバスから
降り、荷捌き場に荷物を預け、
待機、(段々ベンチ)へと
行くまでの連携をとる。

3



1

